地域情報（県別）

北関東で最大の回復期リハビリテーション機能を持つ病院―一般社団法人巨樹の会新上三川病院・大上仁志院長に聞く◆Vol.1

2019年5月29日 (水)配信 m3.com地域版

栃木県南部に位置する、自然豊かな上三川町。のどかな田園風景が広がるその地に、北関東で最大の回復期リハビリテーション機能を持つ「新上三川病院」がある。一般社団法人巨樹の会グループとして、「手には技術、頭には知識、患者様には愛を」を理念に、病院運営を行う同院。具体的にどのようなリハビリ機能を有しているのか、栃木県内で同院がどのような役割を果たしているかなどについて、院長の大上仁志氏にお話を伺った。（2019年4月10日インタビュー、計2回連載の1回目）

▼第2回はこちら（近日公開）

――栃木県内の医療事情について教えてください。

栃木県は南部に自治医科大学附属病院や、獨協医科大学病院、済生会宇都宮病院などがありますが、北部にはそういった基幹病院が少なく、南部に偏っている傾向にあるかと思います。

県内の急性期の医療機関がフルに活動するためには、急性期の症状を乗り越えた患者さんを受け入れるための、回復期リハビリテーション病院が必要です。当院はこういった回復期の患者さんをサポートすることが、大きな役割の一つとなっています。

栃木県の医療を充実させることに尽力する大上仁志院長

――貴院は北関東で最大の回復期リハビリテーション機能を持つ病院とのことです。

はい。当院には回復期の病床が171床あり、それ以外に一般病床が38床あります。これは北関東の回復期リハビリテーション病院として、現状では最も大きい規模になります。もともとは230床のベッド数を持つ整形外科の病院だったのですが、10年前に171床をリハビリテーションのための病床にしました。

このような成り立ちもあって、当院は回復期だけでなく、急性期の患者さんにも対応しています。たとえば脊椎脊髄疾患で入院された患者さんは、最初の1週間前後は一般病床で治療を行い、状態が落ち着いたら回復期の病棟に移って、1カ月ほどリハビリをして帰られるケースが多いですね。

——回復期のリハビリテーションは、どのような方法で行っていますか？

基本的には運動療法や、日常生活動作のための訓練が中心です。必要に応じて、言語や嚥下の訓練なども行っています。脳血管障害の方などは、発語ができなかったり、ものが飲み込めなかったりしますので、そのための訓練も必要ですからね。

当院がリハビリのために設けている設備は充実しておりまして、オキュペーションセラピスト（OT）が作業療法を行うリハビリ室、フィジカルセラピスト（PT）が理学療法を行うためのリハビリ室、スピーチセラピスト（ST）が言語や嚥下などの訓練を行うための個室や、屋外訓練場もあります。

リハビリ室は、窓を大きく取って、明るい雰囲気にしています。リハビリスタッフは若いスタッフも多く、室内は活気がありますね。

窓から明るい日差しが射し込む、理学療法室（画像提供：新上三川病院）

——患者さんが自宅に復帰する前に、和室やキッチン・お風呂での訓練もやられるそうですね。

ええ。作業療法室に和室とキッチン・お風呂場を設置しており、そこで自宅復帰のための訓練を行っています。退院後は和室で生活される方も多いので、実際に和室を使って訓練をしたり、お風呂の出入りや調理訓練等も行います。

作業療法士と共にキッチンに立ち、調理訓練を行う患者さん（画像提供：新上三川病院）

退院後の生活に役立つリハビリを行うためには、できるだけご本人の生活様式に応じたリハビリを行うことが大切です。そのため、屋外訓練場の活用や、外出訓練等も積極的に行っていますし、退院後にフォローアップが必要な方には、訪問リハビリや外来リハビリも実施しています。

和式の生活様式の患者さんには、実際に和室も使って訓練を行う（画像提供：新上三川病院）

――患者さんが退院される前に、スタッフの方がご自宅の状態を確認されているそうですが？

はい。退院前訪問指導（ホームエバリュエーション）を行っています。患者さんが入院している間に、当院のリハビリスタッフが患者さんと一緒に（あるいはスタッフだけで）お宅を訪問し、「ここに福祉用具が必要ですね」「手すりをここに設置した方がいいですよ」といったアドバイスを行います。

大規模な自宅改修などを行う場合は別ですが、そうでなければ患者さんがご自宅に帰られるまでにリフォームを終えて、生活しやすい状態に整えておくことができます。

――屋外にも広いリハビリガーデンがあるのですね。

ええ。屋外にもリハビリ訓練を行うスペースがあって、患者さんがリハビリのスタッフと共に歩行訓練などを行っています。患者さんには農家の方も多いので、小さな菜園で作業を行うリハビリもあります。

車の運転に関しては、実車評価は難しいですが、自動車運転に伴う身体能力や判断力の評価、乗降訓練等を行っています。この地域は車を運転される方がとても多く、若い患者さんが復職する際も車は非常に重要な要素になるので、これもまた大切な訓練ですね。

自然の豊かさを感じながらリハビリができる、屋外のリハビリガーデン
（画像提供：新上三川病院）

◆大上 仁志（おおかみ・ひとし）氏

1958年山口県柳井市生まれ。1983年に栃木県にある自治医科大学を卒業後、故郷の山口県に戻り、山口県立中央病院をはじめ県内の総合病院で整形外科医として勤務する。1992年に再び栃木県に移り、自治医科大学大学院に入学し、筋骨格疾患学を専攻。修了後は同大学病院整形外科に勤務し、1997年に上三川病院（現・新上三川病院）の院長に就任。2000年から3年間は自治医科大学病院整形外科で研鑽を積み、2003年に再度上三川病院の院長を務め、現在に至る。

取材・文／伊藤 樹理